

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100602		
法人名	特定非営利活動法人いきいき会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	西
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地		
自己評価作成日	平成31年 1月 13日	評価結果市町村受理日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=4572100602-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは「その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置きかえるケアを推進し、その人の笑顔が見たい」という理念を掲げ、日々のケアにあたっている。利用者様一人ひとりのこれまで培ってきた生活のペースを尊重し、その人に合わせた生活の支援を行う。認知症の周辺症状や精神的不安に対しては、1対1での対話やタクティール・マッサージの時間を作り、少しでも穏やかに、不安が軽減するように援助している。また地域に根ざすグループホームとして、地区の子ども達や消防団員と協力して行事を行ったり(庵川地区秋祭り)、町・地区の催しに積極的に参加している(餅つき大会・福祉祭り)。近年では運営推進会議等で災害時の対応について話し合ってきたことで地域ぐるみで利用者様の安全を守ろうという意識が生まれ、水害や地震における避難時や防災の面で地区の区長や消防団と協力していく体制が確立してきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念を常に意識し、業務優先にならないよう利用者主体のケアの提供に努め、利用者が笑顔で生活ができるよう、一人ひとりに合わせたケアの実践に努めている。地域との関係性を大切にして、地域行事へ参加し、園児の訪問や利用者家族の演奏会、高校生の介護実習受け入れなど相互に交流を図っている。運営推進会議では活発な意見交換が行われ、出された意見を運営に反映させている。地域の災害対策避難訓練に参加し、地域との協力連携体制の構築に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を主体とした理念を作成している。理念に沿ったケアを実践するためユニット内に掲示を行うほか、勉強会で毎回唱和を行い、職員への理念の浸透を図っている。		「その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置き換えるケアを推進し、その人の『笑顔』が見たい」という理念が職員に浸透し日々のケアに生かされるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区で行われる行事（福祉祭りなど）や地区の避難訓練に参加し、地区住民との交流につなげている。また当グループホームで行われるイベントに地区のこどもたちや消防団などに参加していただいている。		地域の行事などに職員と利用者が共に参加し、地域と日常的に交流するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の一つとして、年2回程度門川高校生の臨地実習受け入れを行っている。実習を通して、認知症を抱えた方への介護方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月ごとに行われる運営推進会議において、毎回生活状況や職員の取り組みについての報告を行っている。またその中で疑問に思うことや、サービスに対する意見があれば教えていただける様に促している。		運営推進会議への出席を家族に呼びかけしており、家族が出席し毎回意見が出され、サービス向上に生かすよう取り組んでいる。町内のイベント情報交換により地域行事への参加につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において町の担当者に出席してもらい、意見をいただいている。また保険制度等について疑問や、対応困難な利用者への対応など、必要に応じて相談に乗ってもらっている。		町の担当者に相談したり、情報交換をして連携し協力関係を構築するよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束等適正化委員会において、どのような行為が身体拘束にあたるのか、身体拘束に繋がるケアをしていないかなどをテーマに話し合いを行っている。身体拘束防止についてのマニュアルを作成し、職員全員がそれを確認して業務にあたるようにしている。		身体拘束適正化委員会でマニュアルを作成しファイルにしている。マニュアルを職員全員で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の原因として不当な身体拘束があり、その前段階に不適切なケアや言葉づかいがあることを、勉強会や身体拘束等適正化委員会にて職員に繰り返し伝えている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在これらの制度を活用している利用者はない。しかし今後社会的・家族的にながりの薄い利用者については、早めに本人・親族に権利擁護事業について説明し、活用を勧めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には静かで落ち着いた雰囲気、ゆっくりと話し合いのできる環境を作った上で説明を行うようにしている。契約書の内容を分かりやすいように時間をかけて説明している。質問があればいつでも伺うことを伝えている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、運営推進会議、家族会等において、直接スタッフに意見を言ってもらえるような機会を設けている。またご家族が施設側に意見を言いやすいよう、第三者委員会の設置も検討している。		運営推進会議で口腔ケアや皮膚ケアについての意見や、地区行事やイベント参加の要望があり、反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる勉強会において、現場で困ったことや意見を管理者や施設長に伝える機会を設けている。また毎日のユニット内での申し送りでも、意見を伺う機会を作っている。		職員とユニット責任者との話し合いで意見を出し、運営者につなげ、職員の意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修等への積極的な参加を促し、働きながらもスキルアップできるように対応している。休日についてはなるべくスタッフの意思を尊重してシフトを作成するようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある日にはスタッフを多めに確保しておくなど、研修を受けやすい環境を整えている。研修に参加したスタッフはその月の勉強会で他のスタッフへ周知し、スタッフ全員の知識技術の向上を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会県北ブロックの役員として他業者との交流の機会を多く持っている。研修や情報交換を通じて、サービスの質向上を図っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階では、まずご本人に希望を伺ってからケア内容を考えていく。ご本人との意思疎通が難しい場合でも周囲から情報を集め、生活歴等を考慮しながらケアを検討していく。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して利用者様本人の情報を得るのに合わせて、在宅介護をおこなっていた時の思いや苦労を傾聴することにより、早期に信頼関係を築けるように対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が面会に来られた時や運営推進会議の際に利用者様ご本人の状態を報告するとともに、ご本人・ご家族のケアに対する意見をいただくようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様毎に認知力やADLの状態を見極め、その人に合わせた形での協力をしていただいている。洗濯物の整理を中心とした家事等できることはともに行うようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要物品の購入や受診の依頼等を家族と職員が協力しながら行っている。疎遠な家族に対しては電話等で利用者様の状況を説明し、面会を促している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴等利用者様の情報を収集して対応している。その上で受診の帰りにご自宅や馴染みのある場所を車で通ったり、知人・友人・親類の面会を促している。地区の行事にも積極的に参加している。		地区行事には参加したり美容室の送迎や受診時に馴染みの場所へドライブするなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流については特に制限せず、自由に交流できるようにしている。スタッフは交流の際の見守りを行い、トラブルに繋がらないように対応している。			

自己 外部	項目	自己評価	西	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居等でサービスが終了しても、病院や転居先に文書での情報提供を行い、継続したケアが行えるように対応する。また家族の相談を受けたり、利用者様に面会するなど関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ご本人が言われた言葉を大切にしながらケアの内容を考えている。また言葉に出すのが困難な利用者様については、生活歴などの情報を参考にしたり、表情や反応から思いを汲み取っていく。	利用者の発した言葉を大切にして、利用者の言葉を記録に残して本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の発言やこれまで一緒に生活してきた家族・馴染みのある知人や友人からの情報を元にこれまでの生活の把握を行っている。情報収集は入居時の他面会時などにも随時行っていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々常に利用者様の状態の把握を行っている。特に心理状態や周辺症状の有無などは認知症ケアにおいて重要なので、申し送り時にスタッフ全員で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人の思いや意向を軸に、ご家族の要望、スタッフの意見、協力医療機関等多方面からの情報を元に計画を作成している。毎月モニタリングを行い、利用者様の身体や精神状態に大きな変化がある場合等には見直しをしている。	短期目標を一覧表にまとめ、記録に反映できるようその日の介護ファイルの1ページに貼付しているが、短期目標を評価する記録に至っていない。	介護計画のサービス内容と日々の記録が連動したものになるよう記録様式見直しの検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ファイルに利用者様毎の短期目標を添付し、それらを意識しながら記入してもらうことで、ケアプランと連動した介護記録になるように対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母の日やクリスマス会、ダンス鑑賞会など、同事業所の提供するデイサービスや有料老人ホームと共同で行事を行うことにより、交流の輪を広げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年、地区住民と一緒に津波想定避難訓練に参加した。また洪水等で避難が必要な場合には、区長→消防団と連絡体制がとれるようになっており、地域ぐるみで安全な生活が保てるよう取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医についてはこちらで特定の病院や医師を指定することはない。あくまで利用者様本人とその家族が安心して医療を受けることができるように、馴染みの医師による継続した健康管理をすすめている。		定期受診は原則家族対応であるが、有料で職員も受診対応して、かかりつけ医への継続受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態の観察は介護職看護職関係なく行っている。ケアの中で健康状態について気になることがあれば、すぐに看護師に相談できるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の基本情報や既往歴、ADLや認知機能といった必要な情報をまとめたものをあらかじめ準備しておき、緊急に受診が必要になった場合に早急に医療機関に情報提供できるように対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りのケアは行っていない。入居初期の段階から身体面、認知機能面についてこれから終末期にかけて予測される変化やリスクについて文書にまとめてものをを用いてご本人ご家族に説明し、緊急時・終末期の対応方法について統一を図っている。		地域に訪問診療を行っている医療機関がないこともあり看取りケアは行っていない。家族には経口摂取ができるあいだはホームでの生活を支援できることを終末期覚書で伝え、意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて年1回ほどの割合で救急蘇生法の研修を行っている。施設外で行われる研修には積極的に参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定避難訓練に加え、今年は門川町主催の津波想定避難訓練にも参加した。災害による避難や断水・停電に備えて飲料水やカセットコンロの購入と設置も行っている。		昼間及び消防と連携した夜間避難訓練の際、近隣に訓練参加を呼びかけているが参加はない。	近隣住民へ具体的な役割を提示して参加を働きかける方向での検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの際には必ずご利用者様本人に声かけと確認を行い対応している。またスタッフ全員が常日頃から利用者様の尊厳を尊重した対応をしていくように意識付けを行っている。	職員は自分がされて嫌なことはしないと自分に置き換えた言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に直接希望をきく、クローズドクエスチョンを用いる、表情や反応をみるなど利用者様本人の理解力や認知力に合わせて、ご本人の希望を伺うようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側から活動を強制したりすることはない。利用者様の生活パターンやできること・得意なこと・興味があることに注目し、利用者様毎に1日1日の生活を援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多いため、できる方は自分で朝や入浴後の整髪を行ってもらっている。服装についても出来る限り自分で選んでもらうようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様やその家族の意見を取り入れながらメニューの構成や変更を行うことがある。食事はユニット内で全て手作りでやっている。利用者様には味つけのアドバイスや食事後のお盆拭きをしていただいている。	利用者には下ごしらえや味見をしてもらっている。本人の体調や気分に合わせて工夫し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様毎に味付けや食事形態を変化させたりして食事摂取量の増加を図っている。ご家族に好みのものを準備してもらったり、一緒に買い物に行ったり等の支援も行っている。体重変化や血液検査結果などから栄養状態の確認をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の時間だけにこだわるのではなく、お風呂の時間など利用者様がリラックスしている時間に促すようにしている。利用者様の状態に合わせて様々な方法で援助している。			

自己	外部	項 目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自力または介助にてトイレで排泄できるように対応している。普段ベッド上のパッド交換を中心に対応している利用者様でも、排便時はトイレに座っていただくなど状況に合わせた対応をしている。		排せつチェック表を活用して声かけを行い、できるだけトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤を使用することはあるが、それ以外に水分を多めに摂っていただいたり、運動を促したりとなるべく下剤を使わない方法での自然な排便も促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜・水曜・金曜の週三回の入浴が基本である。それはあくまで基本であり、それ以外にも利用者様の希望や状況に応じて臨機応変に対応している。入浴の時間を使って、利用者様の不満や不安な思いを聴きとるなどコミュニケーションの場としても機能している。		希望に合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者には時間帯を変え声かけしたり馴染みの職員が声を掛けるなど工夫をして入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や好みに合わせて部屋やベッドの環境を整えている。日中は日光を浴びてもらうことで、夜間できるだけ睡眠薬を用いずに休めるように援助している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤情報を用いて利用者様が服用している薬の情報を整理している。誤薬の無いように服薬支援時には利用者様顔写真での照合を行い、必ず声に出して確認してから提供するようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様本人やご家族から生活歴や得意な物などの情報を収集し、それに合わせた役割をもってもらっている。(料理が得意な利用者様には味見、本や文章に興味を持っておられる方には音読など)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を図るため気候の良い時には積極的に外気浴を促している。町の福祉祭りや餅つき大会など地区の行事には積極的に参加し、地区住民との交流を図っている。		玄関や中庭での日光浴や散歩などを支援している。また、隣接のデイサービスの行事や、地区の行事に参加するなど日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様に直接希望を伺い、希望があれば少額のお金を持ってもらっている。そのお金を利用して買い物をする事で、生活への意欲が高まる方もおられる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話使用の援助を行っている。携帯電話を持っている利用者様に対しては、充電を含めた機械の管理、使用法のアドバイスをを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットホールには季節に合わせた花や小物(クリスマスにはサンタの置物、5月にはミニ鯉のぼりなど)を飾り、利用者様に季節を感じていただいている。ユニット内では特に室温に留意しながら環境調整を行っている。		季節を感じることができるよう、季節行事に合わせて玄関やホールの飾りつけを変えたり、利用者に声をかけて空調を調整するなど居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内には自由に使える和室があり、障子で仕切ることができるようになっている。利用者様が落ち着かない時や特別な対応が必要なときには活用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様の希望に応じて好きなように家具を配置したり、好みのものを飾ったりできるようになっている。家具等については家族に協力していただき、自宅で使い慣れたものを持ってきてもらうように対応している。		ベッドは備品であるが、自宅で使い慣れたベッドを使用している利用者もいる。部屋の扉は希望者だけ開放し安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、歩行可能な利用者様が安全にトイレ等に行ったり、車椅子の利用者様が下肢の運動をするのに使用している。車椅子の利用者様同士が安全にすれ違えるようにホールの廊下部分を広めにとっている。			